

復活祭おめでとうございます！

イエス様の苦しみを覚える受難週の一週間が終わり、イエス様が十字架にかかって苦しんで死なれた金曜日を通して、墓に葬られた土曜日が過ぎ、そして日曜日、夜明けとともに、イエス様がよみがえりました。イエス様は今日生きておられる！そのことを覚える復活祭の朝を迎えることができました。復活祭を迎えることができたことを、ともに感謝しましょう。今日集まったおひとりひとり、この中央会堂のこの場所に、またオンラインで見えている、聞こえていると思いますけれども、丘の上会堂にいる皆さん、庄和会堂にいる皆さん、聞こえてるでしょうか。大丈夫ですか？はい、見えていますね？はい、よかったです。そして、それぞれ家にいらっしゃって、同時配信で、オンラインで、この礼拝とともに参加している皆さん一人一人を感謝します。ようこそおいでくださいました。歓迎いたします！今日この日、私たちが、人数を制限したり、間を開けたり、換気をしたり、消毒したりしながら集まっています。感染から守られ、そして今日が恵みの日となりますように。共に祈りをささげましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。復活祭の礼拝の日を迎えました。主イエス・キリストのよみがえりを、心から感謝します。一年で一番喜ばしい日曜日を迎えました。イエス様が苦しみを通って、十字架の死を通して、この朝よみがえられた。そのことを覚える今日の復活祭です。今年はいつもしているような模擬店や、腹話術や、子どもの抽選会や、いろんなことをすることができません。昨年が続いて、今年もそのような復活祭となりました。この一年、いろんなことがありました。神様、今ここにいる一人一人、オンラインを通して礼拝に参加している一人一人を、あなたがここまで守ってくださり、今日まで守ってくださり、感謝します。今日の礼拝を祝福してください。あなたの復活を覚えて、主イエス様のお声を聞かせてくださいますように。そしてお一人一人が、イエス様の呼ぶ声を聞いて応答することができますよう、答えることができますよう導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。

I キリストと3人の兄弟（物語の背景）

今日朗読していただいた聖書は、「イエス様がよみがえりました」という箇所ではなくて、その前の、まだイエス様が生きておられた時の出来事です。イエス様の友が出てきます。3兄弟がいます。マルタと…マルタがおそらくお姉さんで、マリアが妹、そしてラザロが弟だと思いますが、聖書は“兄弟”としか書いてませんが、おそらくそうでしょう。

主イエスは特別に、この3兄弟を愛しておられました。いつもお付き合いをして、家に入って、大切に、大事な時を一緒に過ごしてきた人たちでした。イエス様と12人の弟子たちを家に迎えたり、泊めてくれたりしたのだらうと思います。ベタニアの村は、エルサレム近くにありました。この11章全体が、この長いまとまりのストーリーになってますけれども、イエス様の命が狙われていることがわかります。「このあいだ、ユダヤ人たちが先生を石打ちにして殺そうとしたのに、またユダヤに行くのですか？」と弟子たちは言いました。イエス様の命はすでに狙われています。でもイエス様はエルサレムに向かうのです。

ユダヤ地方の中に、エルサレムという都があって、そのそばのベタニヤに家があるわけです。今日このみことばの中から、イエス様の語りかけの言葉、3種類の語りかけの言葉を聞いていきたいと思います。

II-1 3つの語りかけ その1：約束「あなたの兄弟はよみがえります」

ひとつは約束の言葉です。イエス様は語りかけ、約束してくださいませ。主イエス様からマルタへの語りかけ、マルタとラザロへの語りかけのことを、まず最初に見ていきましょう。

今日朗読していただいたみことばは32節からでしたけれども、週報の中に、今日の復活祭早朝礼拝と一緒に読んだ11章23-27節が出ています。そこにイエス様の約束があります。「あなたの兄弟はよみがえります」という約束です。これは、主から愛する人を失った人への約束、主イエス様からマルタへの約束です。今日この約束をはじめとして、三つの語りかけの言葉に耳を傾けたいと思うのですが、ちょっとその前後のところを確認しておきましょう。

23節の今読んだところ、「あなたの兄弟はよみがえります」とイエス様が言われた時点で、もうラザロは死んでいるのです。11章1節には、「ある人が病気にかかっていた。ベタニアのラザロである」とあります。マルタとマリアは、人を送ってイエス様に知らせました。「主よ、ご覧ください。あなたが愛しておられる者が、私たちの兄弟ラザロがいま病気です」と伝えたのです。確かにイエス様は、ラザロを愛していた。5節には「マルタとその姉妹とラザロを愛しておられた」と書いてあります。

今、私たちの教会の中にも病気の方がいます。神様が、イエス様が愛しておられる人が病気なのです。私たちはイエス様に「イエス様、あなたが愛しておられる方が今、病気です」と伝えたい、そんな思いです。私は「入院されている」と伺っていました。ですが、「転院することができたならば、その時は面会ができるんじゃないか」と伺っていましたので、「その日を楽しみに待っています」と言っていたんですね。でも「転院ができないような状況である」「病状が難しくなっている」と伺ったのです。また、「個室に移れば面会ができるのではないかと思います」と、ご家族から伺いました。でも「個室に移ったんだけど、やっぱり面会が難しい、できないようです」と聞いて、待ち望んでいたことがですね、そうならないのです。病気になる。これまでもそういうことありましたけれども、去年から今年、病気になって入院すると、面会ができないのです。非常に心苦しく、なんとかならないだろうか、なんとか会えないだろうかと願っています。もしかしたら会えないままかもしれないと思うと、心が痛くなるのです。

マリアとマルタはイエス様に伝言して、「主よ、見てください。主よ、早く来てください」という思いだったでしょう。「あなたが愛しておられる者が病気です」。でもイエス様はすぐには行かずに、2日とどまって、それから「ユダヤに行こう」と言われて、移動を開始して、数日かかって着いたということでしょう。イエス様がそこに着いたとき、もうラザロは墓の中に入れられて、すでに4日経っていました。行く途中で弟子たちに言ったのです。「わたしたちの友ラザロは眠ってしまいました」。弟子たちはその“眠った”という言葉が、睡眠のことだと思ったので、まあ眠っているだけならきっと目を覚ますだろうから大丈夫でしょう、と言ったわけです。昏睡状態のようなことかもしれないと。とにかく眠りだと思った。でもそうではなかった。イエス様は次に弟子たちにはっきりと言いました。「ラザロは死にました。ラザロは亡くなったのだ、さあ彼のところへ行きましょう」と言って、着くと、もう墓に入れられて4日経っていました。マルタは言います。亡くなったラザロのお姉さんは言います。「主よ、もしここにいてくださ

ったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。イエス様、あなたがいてくださったら、病気が治ると信じていたのに、なぜいてくださらなかつたのですか？ どうして願ったことをしてくださらなかつたのですか？」という思いなんだと思います。そこで、先ほどの23節に来るんですね。イエス様は彼女に約束されました。「あなたの兄弟はよみがえります」。そして25節で「わたしはよみがえりです。命です。私を信じる者は死んでも生きるのです」と約束されました。「生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。」これがマルタへの約束でした。「あなたは兄弟の死を悲しんでいる。希望を失っている。けれども、あなたの兄弟はよみがえる。わたしを信じる者は死んでも生きる。生きていてわたしを信じる人は、決して死なない。」マルタへの約束、そして愛する人を失った人への慰めの言葉です。

II-2 3つの語りかけ その2：問い「あなたは信じるか？」

次にイエス様の語りかけはこれでした。「あなたは、このことを信じますか」。イエス様はお約束を与えて、その上で「あなたは信じるか？」と尋ねたのです。

「私の兄弟はもう死んでしまった。もう墓に納められて4日も経っている。もう会うことができない」と思っているマルタに。「よみがえるのだ。また会えるのだ」と約束して問いかけます。「信じますか？」と。イエス様は約束してくださいます。イエス様の、神様の約束が、聖書の中にたくさんありますね。皆さんはどんな神様の約束を、聖書の中に見つけているのでしょうか。今日の、マルタへの約束はその一つですね。そして約束を与えた後に、イエス様は問うのです。「あなたはこのことを信じますか？」と。「約束がある。信じますか？」と問うのです。私たちはどう答えたらいいのでしょうか。

27節で、マルタは「はい、主よ。私は、信じております」と答えました。「信じています」と言ったんですね。マルタの信仰は、何というか、イエス様が言っていることを、全部は理解していないような感じですが、でも信じてるんですね。信じてるんだけど、半分しかまだわかってない感じです。「あなたの兄弟はよみがえりますよ」という約束に対して、マルタは「終わりの日のよみがえりの時に、私の兄弟がよみがえることを知ってます」と言いました。26節で「決して死ぬことはありません。このことを信じますか」という問いに、「はい、主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております」と言います。「信じますか？」というイエス様の問いかけ。これは、マルタの信仰の応答を促す問いかけです。「あなたは信じますか？」と、イエス様は私たちにも問いかけて、「信じます」という応答をするように励まし、引き出し、背中を押してくださるのです。

この後、マルタは妹のマリアを呼び、今度はマリアが外に出て、イエス様と出会います。そうして同じように、「イエス様、あなたがいてくださったなら、あなたには病気を治せたのに、死なないで済んだのに、どうして」と言うのです。その時彼女は泣いていました。今日朗読された32—38節のところですね。マリアは泣き、一緒にいた人たちも泣いていた。イエス様はそれを見て、心が揺り動かされました。「ラザロをどこに納めたのですか」と尋ねて、「主よ、どうぞおいでください、ご覧ください」と案内されたので、イエス様はそこに行きます。その時、35節「イエスは涙を流された」。亡くなった人のことを思って、その死を悼んで、悲しんで、涙を流されました。そして墓に向かい、向かう途中、イエス様は再び心の内に憤りを覚えた。心が揺り動かされ、「なぜ死ななければならぬのか、なぜ人が死ななければならぬのか」という、受け入れ難い思い、納得できない思い、憤りを感じた、というのです。イエス様は死を悲しみ、また憤りを覚えました。死を泣き、死に怒られたのです。そして墓に来ました。「その石

を取りのけなさい」。マルタは言います。「主よ、もう臭くなっているでしょう。もう4日になるのですから。」悲しい言葉です。でもイエス様は、彼女に再び言います。「信じるなら神の栄光を見ると、あなたに言ったではありませんか」。「信じるならば、と云ったではないか。信じなさい」という促しです。

II-3 3つの語りかけ その3：呼び出し「出て来なさい！」

そこで彼らは石を取りのけます。イエス様は目を上げて、「父よ」と祈ります。周りにいる人たちのために、「あなたがわたしを遣わされたことを、彼らが信じるようになるために」と父に祈って、そして43節「イエスは大声で叫ばれた。『ラザロよ、出て来なさい』」。

三つ目はイエス様の呼び出しです。主から、墓の中のラザロへの呼び出しの言葉です。「出て来なさい！ラザロよ」。名前を呼びます。イエス様はラザロのことをよくご存知で、名前を呼んでくださるのですね。

イエス様は、今日ここにいる私たち、今日オンラインでつながって、一緒に復活祭の礼拝に参加している、私たち一人一人のことをご存知で、ひとりひとりの名前をご存知です。健康であるかどうか、何歳なのかどんな状況にいるか。そして一人一人の名前をご存知で、名前を呼んでくださいます。「ラザロよ」と呼んだように、私の名前を呼び、あなたの名前を呼んでくださる方です。「ラザロよ」。名指しで呼び、「出て来なさい！」と呼び出し、招きました。

ラザロは眠っていたんですね、墓の中で。眠っていたといっても亡くなっていました。死んでいたのです。でもラザロがその声を聞いたのです。不思議なことです。そしてなんと、出て来た。立って、歩いて、出て来たのです。彼の手と足は長い布で巻かれたままでした。だから、これ広げられないってことですよ。巻かれてるわけですからね。巻かれたまま出て来た。顔も布で包まれてました。そのまま出て来たんです。墓から。不思議な光景です。驚くべきことです。そして不思議な、ちょっと笑ってしまうような、ユーモラスな姿のように思います。巻かれたまま、歩いて出て来る。でもそれどころではなくて、姉妹たちは、ただただ嬉しかったと思います。「私たちの兄弟が出て来た！歩いている。生きている！」嬉しかった、ただ嬉しかったでしょう。イエス様は言われます。「ほどいてやりなさい。家に帰らせなさい」。

墓の中のラザロを、イエス様は呼び出しました。「ラザロよ、出て来なさい！」なんとその声を、墓の中のラザロは聞いて、出て来たのです。「出て来なさい、墓から外へ！死から命へ！闇から光へ、出て来なさい！」これがイエス様の招きです。そうして、マルタとマリアとラザロは、イエス様の約束の言葉を聞き、問かけの言葉を聞き、そして呼びかけの言葉を聞いて、出て来たのです。再び一緒に生きられるようになったのです。

III 復活の朝

さて今日は、復活祭です。今日の聖書のみことばは、イエス様がよみがえったという箇所ではありませんでしたけれども、聖書の各福音書の最後に、復活の日の出来事が書かれています。ヨハネの福音書でいえば、20-21章のところに復活の日の出来事が書かれています。

朝早くまだ暗いうちにマリアは、（これはマグダラのマリアで、さっきのマリアとは違うマリアですが）マグダラのマリアは墓に行きました。朝早く墓に行った女性たちの姿を描いた絵が、今日の中央会堂の後ろの、階段の上のところに掲げられています。墓に行ったけれども墓は空だったのです。そして御使いの「ここにはおられません。よみがえられたのです」という知らせを彼女たちは聞きました。聞いて驚いて

動転した。怖くて何も言わなかったかもしれないし、何か伝言したかもしれない。そしてまた移動中に、歩いて行く途中にイエス様が現れて出会った。そういういろんな出来事がありました。復活の日が、十字架の金曜日から3日目、金、土、日、3日目の日曜日でありました。

御子が十字架に死に、墓に葬られました。イエス様は苦しんで血を流して死に、そして墓に納められたのです。墓に葬られたのです。そして金曜日の夕方墓に納められたイエス様は、土曜日、墓の中で眠っておられました。亡くなってしまった、もう息をしなくなってしまったイエス様のからだ、墓の中に納められていました。しかし週の初めの日、日曜日の夜明け、父が、天の父が御子を墓から呼び出したのです。「出て来なさい」と。「死から、墓から出て来なさい」と、天の父が御子イエス様を死の中から呼び出してくださったのです。呼び覚ましてくださったのです。「目覚めなさい。起きなさい。さあ立ちなさい」と。それでイエス様は墓から出てきました。イエス様の姿はどんな姿だったのでしょうか。イエス様はもう布で巻かれてはいませんでした。布は墓の中にありました。頭を包んでいた布もありました。イエス様は墓から出て来たのです。御子イエス・キリストは復活しました。今日はそのことを喜び日、そのことを伝える日、一緒に感謝する日です。復活は「キリストの十字架の贖いが、完全だった」という証しです。

十字架の上で御子がいのちを与えて身代わりに死にました。イエス様は罪のない方でした。罪のない方は他にいません。罪のないただ一人の方が、罪ある人たちのために代わって死んだのです。ここはとっても大事なところですよ。大事です。罪のない方が、罪のある人たち、つまり私たちのために、代わって死んだのです。この私のためにです。そして皆さん一人一人のために、代わって死んでくださったのです。その身代わりの死、そして罪に囚われ、死に捕らわれている人間の身代金（解放するための代金ですね）の支払いが完全に完了しました。イエス様は「完了した」と言って霊を父にゆだねて息を引き取られました。イエス様は成そうとしたことを、完全に成し終えたのです。罪人を解放するために、赦しのために完全に終わりました。復活は、イエス様の贖いのみわざが完成したこと、身代金が完全に支払われた、完済したことの保証です。父が、「完璧だった」「完全に成し遂げられた」と認めて「良し」として、満足されたことの証しです。父が御子をよみがえらせてくださった。起き上がらされたのです。

十字架、そして復活、それが私たちの信仰の支えです。信仰の中心です。十字架が、贖いそのものの身代わりの死、限りない愛です。本当は死ぬべき、むちで打たれるべき私が、釘で刺されて、吊るされて、殺されて人前にさらされるべき私が、もうそのように裁かれなくてもよいように、イエス様が、代わりに裁かれてくださいました。イエス様が代わりに罰を受けて、むち打たれ、釘打たれ、殺されてくださいました。イエス・キリストの復活が、希望です。死への勝利です。十字架が救いであり、復活が死への勝利なのです。私たちは地上でどんなに良い人生を歩んでも、人生の後半で、人生の最後で、最後は老いて病んで死ぬという、恐れを持っています。でもイエス様の復活は、老いて病んで死ぬという、恐れを打ち破る、圧倒的な勝利です。それがキリストの復活です。十字架と復活に、いのちと希望があります。そこに赦しがあり、勝利があります。これを信じることから来る希望を共有したいと願います。

IV 私たちへの語りかけとして

さて今日は、イエス様の三つの「語りかけ」のことばを聞きました。マルタに対して、またラザロに対して、イエス様は三つのことを語りかけてくださった。今日はそれを、昔の人へのイエス様への語りかけ

として、「そういうことがあったんだ。その人たちにとって良かったね」ということで終わらないで、私たちへの語りかけとして聞きたいと思うのです。ラザロがイエス様に呼び出されたように、私たちがイエス様が呼び出してくださるということです。

三つの語りかけ、一つ目は約束でした。私たちへの約束、あなたへの約束、主から、愛する人を失うことを恐れる人、愛することを失ったことを悲しんでいる人への、約束です。「あなたの愛する人はよみがえります」「あなたの兄弟はよみがえります」これが約束ですね。そして「わたしを信じるなら死んでも生きる」「わたしを信じる者は決して死なない」これが約束です。

そしてイエス様は今日私たちに約束を与えてくださり、私たちに問いかけます。「あなたはこのことを信じますか」と。私たちが問いかけられているんですね。イエス様を信じるなら、決して死なないのだ。死んでも死なないし、死んでも生きる。決して死ぬことがないんだ。「このことを信じますか」と問いかけて、私たちの信仰の応答を促しておられます。「信じなさい」と励ましていただくのです。

そして三つ目に、イエス様は私たちに、あなたに、呼び出す言葉をかけておられます。「出て来なさい」と。これは私たちへの呼び出しでもあります。私たちがいずれ、いつか死ぬ。死にますよね。確実に私たちが墓に入ることになります。私たちが呼び出されるのです。

そして将来、確実に死んでいる自分への呼び出しだけではなくて、今生きている私たちへの呼び出しでもありますね。「あなたは今ここにいるところから出て来なさい」とイエス様が今日、私たちを呼んでくださいます。私たちはまだ死んでないと思うかもしれませんが。まだ墓に入っていないと思うかもしれませんが。でもイエス様は「あなたが今いる、そこから出て来い」と呼んでくださるのです。

今日交読文でともに読みました、ペテロの手紙第1の2章の24-25節に、私たちがその中にある闇、私たちの墓のようなものが三つ、描かれ述べられています。あるいは歌われています。ペテロの手紙第1の2章の24節「キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた」。

一つ目は“罪”です。続きはこうです。「それは私たちが罪を離れ、義のために生きるため」。罪がある。私たちには罪がある、と聖書は私たちに語るんですね。でもその罪を離れることができるために、そして義のために生きることができるようになるために、キリストは十字架の上で、罪をその身に負ってくださった。私たちが負っている罪、私たちが負うべき罪です。でもそれをキリストが自分の身で負ってくださった。それは罪を離れることができるようになり、生きるようになるためだということです。

二つ目は“傷”です。「その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒された」。イエス様の傷であなたがたは癒されたのだ、ということです。イエス様は傷つけられました。からだは傷つき、心が傷つき、たましいが傷つき、人から馬鹿にされ、最後は父に捨てられたのです。それが救いの贖いのご計画でした。でも「イエス様の受けた傷のゆえに、あなたがたは癒された」とあります。あなたがたには傷がある。でも癒されることができる。それが聖書が私たちに語っていることです。イエス様が受けた傷によってあなたがたの傷は癒されるのだ、と言うのです。二つ目は傷ですね。

三つ目は“さまよい”です。迷子の状態です。25節「あなたがたは羊のようにさまよっていた」。「羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり、監督者である方のもとに帰った」「あ

あなたは迷子だ、でも帰ることができる」。それがイエス様の呼ぶ声です。罪の中から、傷の中から、迷子状態の中から「出て来なさい」。

罪とは霊的な死の状態のことです。罪とは神に背くこと、神に背を向けることです。神から離れて迷っている状態、迷って霊が、たましいが死んでいる状態のことです。生まれながらの人間は霊的死の状態にあるのだと、聖書は伝えています。からだは生きていても、霊は死んでいると、あなたがたの霊は死んでいるというのです。聖書は死を宣告するために私たちにそれを語るのではなくて、死から命へと招くために語っています。あなたは霊的に死んでいる。しかし生きることができる。主イエスはいのちを与えて身代わりに死にました。それによって人が死ななくてもよいようになるためです。

イエス様は死んでいる人に約束します。死んでいる人はよみがえると。そして問いかけます。「信じますか」。そして呼び出します。「出て来なさい」。「外へ、いのちへ、光の中へ出て来なさい」。ラザロを呼び出したように、私たちを呼び出してください。罪の中から赦しへと、傷ついた状態からたましいの癒しへと、迷子の状態から本来の居場所、父の家、あなたの天のお父さんの家に帰れるんだよ、帰りなさい、と招いてください。父の家に帰るために、「さあ出て来なさい」あなたが隠れている部屋から、閉じこもっている場所から「出て来なさい」。今日主が呼び出しておられます。復活の主イエス様が、今日私たちのことも呼んでくださる。「あなたは今出て来なさい」と。罪と、傷と、迷いの中に閉じこもり、閉じ込められているすべての人間に、呼び出しのことばをかけてくださいます。

V この声を聞いて

答えましょう。信じましょう。ラザロとともに、自分が墓の中にいる気持ちでこの声を聞きましょう。墓の中にいる気持ちって、なったことあるでしょうかね。あまりないかもしれませんが、ラザロはお墓の中で聞いたのです。私たちは今生きています。からだは生きています。いつか墓の中にからだが入りますね。骨が入ります。でも今、私たちの霊とたましいが、迷って傷ついて罪の中に死んでいるならば、闇の中にあるならば、墓の中にいる気持ちでこの声を聞きましょう。

イエス様は、名前を、私の名前を、あなたの名前を呼びます。「出て来なさい」。

「あなたは出て来なさい」と呼ばれます。今日私たちがラザロになって、出て行きましょう。イエス様の呼ぶ声を聞いて出て行きましょう。墓の中から、またそれぞれの闇から、死んでいる私たち、縛られているすべての罪、傷、迷子状態から、そこから「出て来い」と呼んでくださる声を聞いて出ましょう。墓の外へ、明るいところへ。そしていつか私たちの死後、主が私たちすべてを呼ぶときがきます。「出て来なさい」と。主に会う備えをしましょう。「信じる者になれ」との招きがあります。今日信じましょう。「信じますか」という問いかけがあります。今日答えましょう。

今日信じ答えましょう。「信じます」と言えるならば幸いです。主があなたを喜んでくださいます。信仰は自分で手に入れるものではなくて、恵みによって与えられるものです。神様のプレゼント、贈り物、賜物として感謝して受けるものです。「信じます」と言えるならば、それをともに喜びたいと思います。

あるいは「信じます」と言えないと思う人がいるかもしれません。信じられるかどうか分からない、「信じます」と言っていないか分かりません、という人がいるかもしれません。そういう人はぜひイエス様の十字架の上の祈りを思い出してほしいと思います。イエス様は、「彼らをお赦しください。彼らは自分で自分

が分からないのです」とお祈りしてくださいました。分からない人のために、イエス様が祈ってください。分からないから無理だ、分からないから駄目だってことではありません。分からない人のために、イエス様が祈ってくださいを知っていただきたいと思います。

主があなたを待っておられます。主があなたを探しておられます。復活の主に会う日となりますように。復活の主の声が聞こえますように。「父よ、彼らをお赦してください」と祈る声があります。誰かが自分のために祈ってくれると知る時に、心がどう動き、変わっていくのでしょうか？ そしてイエス様の呼び出しの声があります。復活の主の声が聞こえますように。そこから「出て来なさい」「わたしとともに生きよう」。イエス様が呼び出してくださいます。

VI 祈りのとき

ではこれから祈りの時としたいと思います。イエス様の呼びかけに応じて、それぞれ祈りましょう。今日は週報の中に「私の祈り」という一枚の紙を入れてあります。ここに今日ですね、イエス様の声、イエス様の「約束を信じますか？」という問いかけを聞いて、そして「出て来なさい」という呼び出しの言葉を聞いて、私はどう答えるか、祈っていただきたいと思います。皆さんの心は何て言っているのでしょうか。イエス様の「信じますか？」という問いかけに、「出て来なさい」という呼びかけに、あなたの心は今、何と言っているのでしょうか。自分の心の声を聞いてみていただきたいと思います。そしてそれを祈りにして、黙祷のうちに、祈りにしてイエス様にお伝えしましょう。お話ししましょう。そしてそれをその後、この紙に書いてみていただければと思います。オンラインの方にはこの紙がないかもしれませんが、まず「今日の私の祈り、私の決心」という欄がありますので、手近な紙でも結構ですから書いていただければと思います。そして以下、当てはまるところに印をつけてくださいというところ、「イエス・キリストを信じます」「バプテスマを受けキリストに従って行きます」「イエス・キリストについてもっと知りたい」「心新たにされ、キリストに従います」「人生を考える上で参考になりました」などの欄があります。これから祈りと、「私の祈り」を書く時間にしたいと思います。「信じますか？」という問いにどう答えるでしょう。「出て来なさい」という声に応えましょう。新しいのちへ踏み出しましょう。それぞれが黙祷のうちに祈ります。（黙祷）

どのようにイエス様の声に、お答えすることができたでしょうか？ 「イエス・キリストの名を信じること、そして互いに愛し合うこと、それが神の命令です」と聖書にあるように、イエス様を信じる者とならせていただくことができますように。

天の父なる神様、復活祭の礼拝をともにできて感謝します。今一人一人があなたの御前に答えたことを、あなたは聞いてくださいました。「イエス・キリストを信じます」という人の信仰を祝福してください。「洗礼を受けます」という人のことを、あなたが導いてください。そしてあなたのことを、イエス様のことを「もっと知りたい」という人に、どうぞあなたのことを知らせてください。「心新たに、イエス様に従います」という人の歩みを祝福し、それぞれの一人一人の人生にこれからも御手の導きがありますように祈ります。中央、丘の上、庄和、またオンラインで参加している一人一人に、あなたのお恵みが豊かにありますように、主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。